

2021年5月21日

一般社団法人 繊維学会 会員各位

一般社団法人 日本繊維機械学会 会員各位

一般社団法人 日本繊維製品消費科学会 会員各位

繊維学会、日本繊維機械学会、日本繊維製品消費科学会の一法人化を視野に入れた議論開始について

日頃より、繊維学会、日本繊維機械学会、日本繊維製品消費科学会（繊維系三学会）の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

繊維系三学会では会長、副会長、事務局長をメンバーとする連絡会を定期的を開催し、それぞれの学会が抱える諸問題や現状認識について情報共有を図って参りました。2020年8月29日の連絡会において、(1)学会活動に参画する人材の確保と育成、(2)社会情勢の変化に左右されない財政基盤の確立、(3)グローバルな時代に対応する国際的活動の強化が、きわめて喫緊の課題となっていることが共通の認識となり、一歩進んだアクションとして、三学会ワーキング（WG）を結成し、連携して問題解決に挑む取り組みを始めることを決しました。

これを受けて慎重な議論を重ねた結果、諸問題を解決し、新しい時代に向けて未永く繊維系学会を維持・発展するためには、各学会の特徴ある伝統を守りながらも、繊維原料から消費に至る広範な領域にわたって三学会が築き上げてきた英知を結集し、今後のビジョン・ミッションを明瞭にした上で、統合・一法人化することを視野に入れた議論を始める必要があるとの判断に至りました。そして、各学会の理事会にて、その議論開始の可否について諮り、了承を得たところです。

繊維系三学会がそれぞれのよさを持ち寄って、新たな魅力ある学会を創生することが可能となった場合、統合され新たに生まれる学会では、広範な領域の研究者・技術者が集うことで、従来の枠組み（川上・川中・川下、産学官等）を超え、世界に向けた価値提案、社会的問題解決、及び他分野と連携した新学術分野の創成に向けて会員が国際的に活動する場として機能することや、次の時代を担う人材育成にも寄与することが可能となります。また、統合・一法人化の副次的な効果として、財政面、運営面での効率化が達成され、持続的に発展していくための基盤を確かなものとするができると思います。今こそ、各学会の会員の皆様にとって、より魅力的な、新時代に相応しい学会へと変貌するチャンスではないでしょうか。

一法人化に向けての検討にあたり、解決すべき課題は多くありますが、生活必需品であるだけでなく、地球環境を支える様々な関連技術の中核を担う存在でもある「繊維」の学問を追求する、繊維系学会のあるべき姿・活動目標を明確にして、国際的にも高いポジションを維持しつつ、魅力ある新たな価値の創出と発信を実現し、学理の面から社会をリードする学術団体の構築を検討していく所存です。

会員各位におかれましては、繊維系三学会が抱える諸課題を踏まえ、三学会の一法人化を視野に入れた議論を始めることに関し、ぜひともご理解を賜りますよう、お願い申し上げます。

一般社団法人 繊維学会

会長 荻野 賢司

一般社団法人 日本繊維機械学会

会長 井上 真理

一般社団法人 日本繊維製品消費科学会

会長 牛田 智